

まちづくり市民活動団体の構成員の担う役割と参加動機の関連性

RELATIONSHIP BETWEEN ROLE AND PARTICIPATION MOTIVATION OF MEMBER IN COMMUNITY ACTION GROUP

籾谷 祐介*¹, 中原 宏*², 椎野 亜紀夫*³
Yusuke YABUTANI, Hiroshi NAKAHARA and Akio SHIINO

The aim of this study is to clarify the relationship between the roles of members and the motivations to participate community action groups. Main results were as follows:

1. It was clarified that the construction of roles of members in community action groups was composed of 3 factors: "Diplomatic and intellectual role" factor, "Leadership role" factor and "Behind the scenes role" factor.
2. The role types of members were classified as follows: "type of all-around leader", "type of supporter" and "type of follower".
3. We investigated the relationship between the roles of members and their participation motivations.

Keywords : Machizukuri, Community action groups, Role, Motivation, Community design, Factor analysis

まちづくり, 市民活動団体, 役割, 動機, コミュニティデザイン, 因子分析

1. はじめに

1.1 研究の背景と目的

町内会等の地縁型コミュニティ^{注1)}の弱体化に伴いまちづくり^{注2)}市民活動団体(以下、まちづくり団体)^{注3)}がそれに代わる新たな地域の担い手として期待されている。近年、外部の専門家が人を集め、ワークショップを開催し、まちづくり団体の形成を促すことで地域課題解決に取り組むコミュニティデザイン¹⁾が注目されている。

筆者らは前稿²⁾で、まちづくり団体の構成員を参加動機によって、①「余暇活用型」、②「承認欲求型」、③「自己実現型」に類型化し、それらの参加動機と団体の活動タイプ(「プレーヤー型」と「エリアマネージャー型」^{注4)})との関連性について明らかにした。それにより、専門家が構成員の参加動機に対して効果的なワークショップの枠組みやプログラムを設計する際、およびまちづくり団体が目指す活動タイプに合わせて参加者を集める際に有用な知見を得た。

一方、まちづくり団体の形成には、構成員の役割分担も考慮する必要があると考えられる。山崎はコミュニティデザインの要点の1つとして、多様な居住歴、居住地、年齢、性別、職業からなる団体の形成を心がけることを挙げており³⁾、構成員の多様さがまちづくり団体の形成において重要であることを示している。多様な構成員からなるまちづくり団体は、構成員が各能力を生かした役割を担って活動し、それにより効果的な団体運営が可能となり活動も活発化すると考えられる。ただし、非営利団体であるまちづくり団体では、すべての構成員に地位や役職が明瞭に定められていない場合が多い。そこで本論における役割とは、企業等で採用される特定の階級からの指示や与えられた地位・階級ではなく、「団体が目指す目的を達成

するために、団体内において内的要因(自身の欲求等)あるいは外的要因(他の構成員からの期待等)によって規定され自然発生的に表出する行動様式」と定義する。それでは、各構成員が担う役割はどのように規定されているのであろうか。そこには内的要因の一つとして参加動機と関連性があるというのが本論の仮説である。

まちづくりに参加する構成員には初めに参加動機がある。そして、まちづくり団体の構成員は自主的・自発的にその活動に参加していることを前提とするため個人の動機づけが重要であり、その動機が満たされない場合は活動を自由にやめることができる⁴⁾。つまり、継続的に活動に参加しているということは、参加動機が何らかの要因によって満たされていると考えられる。また、構成員は個人的な動機を組織の行動に反映させようとする⁵⁾ことから、団体における構成員の役割が参加動機を満たす要因の一つと考えられる。役割は他の構成員との関係性の中で変化することもあるが、活動に継続的に参加しているということは現在の役割が参加動機を満たしていると仮説が立てられる。そのため、ある時点において継続的に参加している構成員を対象に参加動機と役割の関係について統計的手法によって有意な結果を導き出すことができれば、それらの関連性を明らかにすることができる⁶⁾と考えられる。それらを明らかにすることは、専門家がワークショップ等の方法を用いて適切な役割分担が行われる団体の形成を支援する際に、求める役割に適した参加動機の構成員を集めるという戦略的な人材確保のための有用な知見となる。また、専門家が支援する団体が自律的に活動をしていくよう促す際に、どの構成員にどの役割を委ねていけば良いかの判断材料にもなる。さらに、まちづくり団体の構成員の役割の特徴を分析すること

*¹ 富山大学芸術文化学部 講師・修士(デザイン学)

*² 札幌市立大学デザイン学部 名誉教授・工博

*³ 札幌市立大学デザイン学部 准教授・博士(工学)

Senior Assist. Prof., Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama, M.Design

Emeritus Prof., School of Design, Sapporo City Univ., Dr.Eng.

Assoc. Prof., School of Design, Sapporo City Univ., Dr.Eng.

で、まちづくり団体の形成に必要な人物像を把握することもできる。また、団体の活動タイプによる影響についても明らかにすることができれば、活動タイプを考慮した支援が可能となりより有用性は高まると考えられる。すなわち、本研究は自然発生的に生じた役割と参加動機のある一定の関係を外部支援者が誘導的に構築する際に役立てるといふ狙いがある。

そこで本研究では、1) まちづくり団体の構成員の役割分担の構造がどのような因子によって構成されているかを抽出する。次に、2) 役割によって構成員を類型化し、各類型の特徴を明らかにする。そして、3) 構成員の役割類型と前稿で明らかにした参加動機類型の関連を検討することで、役割と参加動機の関連性を明らかにする。さらに、4) 団体の活動タイプによる構成員の役割への影響を明らかにする。以上の成果から、まちづくり団体ではどのような役割分担がされているのか把握し、各役割と参加動機の関連性を明らかにすることを通じ、今後まちづくり団体への実効的・戦略的な活動支援に援用していくことを本研究の目的とする。

1.2 既往研究

まちづくり団体の継続性に関する研究には、内田らの HOPE 計画策定によって発足したまちづくり団体の継続に影響を与えている要素を明らかにし、団体が HOPE 計画推進事業に与えた影響を評価した研究⁶⁾や、高橋らの行政による広域事業によって設立したまちづくり団体の事業後の活動継続実態と継続要因を明らかにした研究⁷⁾がある。まちづくり団体の専門家による支援に関する研究には、田口らのまちづくり団体を立ち上げるプロセスにおいて自治体シンクタンクが果たした役割と市民主体のまちづくりを促す上での意義と課題を明らかにした研究⁸⁾や、安里らの自治体における支援制度が住民主体の身近な環境づくりに対して果たした役割と課題、今後の公的支援の方向性を考察した研究⁹⁾がある。まちづくり団体の構成員の役割を扱った研究には、筆者らの構成員の担う役割を明らかにするための分析方法を開発する基礎研究¹⁰⁾¹¹⁾や、田口らのコミュニティ形成に大きな役割を果たしている複数のキーパーソンの性質とその役割を考察した研究¹²⁾がある。まちづくり活動への参加動機に関する研究は、樋野らの子どもの地域活動の参加要因と健康関連要因の構造を明らかにした研究¹³⁾や、谷口らの震災の被害を受けた他地域に対する援助の実施要因を明らかにした研究¹⁴⁾がある。これらの研究はコミュニティデザインに関する貴重な研究であるが、まちづくり団体の役割と参加動機の関連性についてはこれまでに明らかにされていない。その理由として、まちづくり団体の構成員の役割は自然発生的に表出する行動様式であるため明瞭に特定することが困難であり、本研究のようにすべての構成員の役割を客観的に評価した研究が見られなかったからと考えられる。以上の点において、本研究は独自性を有すると考えられる。加えて、本研究成果はまちづくり団体の組織マネジメントの方法論を検討する上での基礎的知見ともなり、学術的意義を有すると考えられる。なお、本研究では前稿と同様に、まちづくり団体に参加し、まちづくり活動を行うことを一連の行為と捉え、まちづくり団体への参加動機とまちづくり活動への参加動機を同義として扱うこととする。また、団体の設立時からの構成員と途中参加の構成員の参加動機については、まちづくり活動への参加動機という点で同じ尺度で測定可能であると考えられるため、両者を同等に扱う。

2. 研究の方法

2.1 調査対象

本研究で扱うまちづくり団体は山崎の定義³⁾を参照し、①特定のテーマを掲げて活動する集団であり、②同じ地域に居住している構成員から成り、③非営利の活動を主とし、④まちづくりに貢献する活動を行っている団体とする。調査対象は、参加動機との関連性を検討するために、前稿で対象とした団体を対象とする。ただし、それらのうちの「大子町屋台研究会」と「結いプロジェクト」は、筆者らの既往研究¹⁰⁾において、本研究で用いる調査項目とは異なる項目を用いて既に調査を実施しているため、本研究対象から除外することとした⁵⁾。よって、計 8 団体に所属するすべての構成員 106 名を対象とした。団体選定においては、①実際に活動している団体を対象とするためまちづくりに貢献する活動実績を有している団体であること、②団体設立時からの構成員と途中参加の構成員の両者を含め、参加動機の記憶が新しい構成員から回答を得るため活動期間が 10 年未満であること、③役割をすべての構成員による相互投票方式によって評価する上で構成員同士がお互い認識している必要があるため⁶⁾、構成員が最大 30 名程度であることを条件とした。年代によって社会的立場が異なることから、構成員の年代は役割に影響すると考え、「プレーヤー型」と「エリアマネージャー型」の活動タイプごとに、若者、中堅者、高齢者、多世代で構成された団体を抽出した。各活動タイプから 4 団体ずつ抽出した意図は、活動タイプ別に構成員の役割と参加動機との関連を検討するためである。抽出にあたっては、構成員の役割を相互評価方式によって正確に評価するために十分な回答率が必要であり、またある程度の活動実績を有していることの信頼性を確保するために、「プレーヤー型」と「エリアマネージャー型」の団体を判別可能である 5 名の専門家(まちづくりを専門とする研究者および実務者)に、構成員の世代と活動タイプを指定し、上記①～③の条件に合う既知の団体を紹介してもらい機縁法を採用した。機縁法ゆえ、回答者に偏りが生じる可能性も考えられるが、前稿の結果から各参加動機類型の人数に大きな偏りはなく⁷⁾、各活動タイプから 4 団体ずつ構成員の年代のバランスを考慮して抽出したことから、構成員の参加動機と役割との関連の傾向を検討する第一段階として妥当であると判断した。

2.2 調査項目

(1) 構成員の属性と活動評価に関するアンケート調査の項目

構成員の属性を把握するために、年齢、性別、職業の項目を設定した。各構成員がまちづくり団体の活動成果を評価するための「まちづくり団体のまちへの貢献度」の項目と、構成員自身の貢献度を自己評価するための「構成員のまちづくり団体への貢献度」の項目を設け、100 点満点の点数によって回答を得ることとした (Table1)。

(2) 構成員の役割調査の項目

役割調査の項目は、まず行動様式を示すエゴグラム¹⁵⁾の 5 つの性格特性を団体における役割として適用できると考え、これに対応する 5 項目を設定した。次に、先に挙げた 5 項目以外の役割について文献¹⁶⁾を参照し 3 項目を設定した。さらに、実際に活動している構成員が普段の活動の中で把握する役割もあると考え、既往研究¹⁰⁾で対象とした 2 団体に所属する構成員を対象としたヒアリング調査¹⁰⁾およびアンケート調査¹¹⁾によって 4 項目を抽出した。以上、12 の役割項目を設定した (Table2)。そして、これらの項目を各団体内

どどの構成員が担っているかを自分以外のすべての構成員を対象に相互に投票する形式の役割調査票を作成した。この調査票を用いた団体内におけるすべての構成員を対象とした相互評価方式は、それぞれの構成員がどの役割を担っているか客観的に把握でき、かつ役割、資質、適性ではなく表出する行動様式としての役割が評価できる方法として採用した。なお、構成員の数の大小による役割の投票の影響を極力小さくするために、各項目の投票可能な上限数を定めず、誰にも当てはまらない項目については投票しなくても良いことを調査票に明示した。

2.3 調査実施方法

初めに、研究対象である8のまちづくり団体の事務局に調査協力を依頼し、承諾を得た。そして、アンケート調査票、役割調査票、依頼文を各団体に所属するすべての構成員に対して配布してもらった。依頼文では、回答者の匿名性を確保して研究を進めることを説明し、正確な回答を得るために配慮した。回答は回答者から郵送により得た。調査は、2016年7月から10月の期間に実施した。

なお、分析には統計解析ソフトRを使用した。

Table1 Questionnaire items

Questionnaire items	
Attribute	Age, Sex, Occupation
Evaluation	The degree of contribution of the group to the community
	The degree of contribution of the member to the group

Table2 Questionnaire items of roles

No.	Questionnaire items of roles	Resources
1	members who demonstrate leadership.	Egogram ¹⁵⁾
2	members who give me advice and help a lot.	
3	members who get a story straight and points out the problems.	
4	members who present ideas.	
5	members who are always cooperative with activities of groups.	Literature ¹⁶⁾
6	members who provide and gather the information about activities.	
7	members who adjust various things and do behind-the-scenes work.	
8	members who provide their knowledge and skills.	Hearing survey ¹⁰⁾
9	members who brighten up the atmosphere.	
10	members who provide place and thing for activities.	Questionnaire survey ¹¹⁾
11	members who independently propose plans.	
12	members who bring their cooperators.	

Table3 Descriptions of 8 community action groups

Action type	Action type of player				Action type of area manager				Total	
	Group name	MINNAの会 MINNA-no-kai	東海大学 地域カフェ研究会 Tokai-university- chiki-cafe- kenkyukai	いしやま キャンドル プロジェクト Ishiyama- candle-project	未来の里 一寿の都 Mirainosato- sunomiyako	まこまない 研究所 Makomanai- kenkyujo	横町十字 まちそだて会 Yokomachi- jumonji- machisodatekai	江別における 持続可能なコモン ズのためのしくみ Ebetsu Sustainable Commons System (ESCS)		まち班 Machi-han
Group form	NPO	Voluntary association	Voluntary association	Voluntary association	Voluntary association	NPO	NPO	Voluntary association		
Starting time of actions	2013	2014	2014	2012	2014	2014	2013	2015		
Place	Makomanai, Minami ward, Sapporo city	Ishiyama, Minami ward, Sapororo city	Ishiyama, Minami ward, Sapororo city	Suttsu town, Suttsu, Hokkaido	Makomanai, Minami ward, Sapporo city	Kuroishi city, Aomori pref.	Ebetsu city, Hokkaido	Minami ward, Sapporo city		
Fund	Sales and membership fee	Sales	Funds from sponsors	Sales and membership fee	Personal funds	Grants	Grants and membership fee	Grants		
Number of members	16	9	8	13	7	25	12	16		
Action area	Vacant store	Vacant store	Park	Facility	Makomanai district	Yokomachi-zyumonji area	Ebetsu city area	Minami ward		
Frequency of actions	Five days a week	Three days a week	Event : once a year	One day a week	Meeting : once a month Event : once a year	Meeting : twice a month Event : once a week	Meeting : once a month Event : three times a year community space : three days a week	Meeting : once a month Event : four times a year		
Theme of actions	Management of base to interact with people in the community	Management of base to interact with people in the community	Planning and management of event	Management of a community restaurant	• Research and planning about community actions • Planning and management of events	• Planning and management of event • Management of base to interact with people in the community • Promotion of foods	• Planning and management of event • Activating shopping street • Management of base to interact with people in the community	• Network formation in the community. • Planning and management of events		
Contents of actions	Management of community café to interact with people in the community by using the vacant store of the mall	Management of community café by student to interact with people in the community by using the vacant store of the mall.	Planning and management of candle night event to convey the appeal of park in Ishiyama.	Management of a community restaurant to interact with people in the community by using the lobby of the welfare facility.	• Research and planning about community actions by using space resources such as vacant house and store. • Planning events to interact with people in the community.	• Planning and management of walking tour in the town • Management of place interact with people in the community • Promotion of foods of the city	• Planning and management of events in waterside space to raise value of the area. • Planning and management of workshops for activating shopping street. • Management of place to interact with people in the community by using the vacant store.	• Planning and management of lifelong learning project for human resources excavation and network formation in the community. • Planning events to interact with people in the community.		
n (%)	16 (100.0 %)	9 (100.0 %)	8 (100.0 %)	8 (61.5 %)	6 (85.7 %)	14 (56.0 %)	8 (66.7 %)	13 (81.3 %)	82 (77.4 %)	
Sex	Male	3 (18.8 %)	7 (77.8 %)	4 (50.0 %)	1 (12.5 %)	5 (83.3 %)	10 (71.4 %)	5 (62.5 %)	11 (84.6 %)	46 (56.1 %)
	Female	13 (81.3 %)	2 (22.2 %)	4 (50.0 %)	7 (87.5 %)	1 (16.7 %)	4 (28.6 %)	3 (37.5 %)	2 (15.4 %)	36 (43.9 %)
Age	Upto 20' s	2 (12.5 %)	7 (77.8 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (16.7 %)	1 (7.1 %)	1 (12.5 %)	1 (7.7 %)	13 (15.9 %)
	30' s	0 (0.0 %)	1 (11.1 %)	4 (50.0 %)	0 (0.0 %)	5 (83.3 %)	2 (14.3 %)	2 (25.0 %)	4 (30.8 %)	18 (22.0 %)
	40' s	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	3 (37.5 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	6 (42.9 %)	3 (37.5 %)	0 (0.0 %)	12 (14.6 %)
	50' s	8 (50.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	2 (25.0 %)	0 (0.0 %)	5 (35.7 %)	1 (12.5 %)	2 (15.4 %)	18 (22.0 %)
	Above 60' s	6 (37.5 %)	1 (11.1 %)	1 (12.5 %)	6 (75.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (12.5 %)	6 (46.2 %)	21 (25.6 %)
Occupation	Office worker	1 (6.3 %)	0 (0.0 %)	2 (25.0 %)	1 (12.5 %)	0 (0.0 %)	3 (21.4 %)	1 (12.5 %)	2 (15.4 %)	10 (12.2 %)
	Self-employed worker	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	4 (50.0 %)	2 (25.0 %)	0 (0.0 %)	6 (42.9 %)	0 (0.0 %)	1 (7.7 %)	13 (15.9 %)
	Professional	0 (0.0 %)	2 (22.2 %)	1 (12.5 %)	0 (0.0 %)	6 (100.0 %)	4 (28.6 %)	2 (25.0 %)	6 (46.2 %)	21 (25.6 %)
	Public servant	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (12.5 %)	1 (7.7 %)	2 (2.4 %)
	Housewife	9 (56.3 %)	0 (0.0 %)	1 (12.5 %)	5 (62.5 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	2 (25.0 %)	0 (0.0 %)	17 (20.7 %)
	College student	0 (0.0 %)	7 (77.8 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	7 (8.5 %)
	Part-timer	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (12.5 %)	0 (0.0 %)	1 (1.2 %)
	No occupation	6 (37.5 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (7.1 %)	0 (0.0 %)	3 (23.1 %)	10 (12.2 %)
	Other	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (12.5 %)	0 (0.0 %)	1 (1.2 %)

3. まちづくり団体の概要

3.1 団体の概要と活動内容

前稿のヒアリング調査によって得られた各団体の運営形態（任意団体/NPO 法人）、活動開始時期、対象地区、活動資金、構成員数、活動エリア、活動頻度、活動テーマ、活動内容を Table3 に示す。

3.2 構成員の属性

アンケート調査の結果、有効回答数は 82（有効回答率 77.4%）であった。全体および各団体の回答者^{注 8)}の属性を Table3 および Fig.1,2,3 にまとめた。全体としては、性別は、男性 46 名（56.1%）、女性 36 名（43.9%）であった。年代は、20 代以下が 13 名（15.9%）、30 代が 18 名（22.0%）、40 代が 12 名（14.6%）、50 代が 18 名（22.0%）、60 代以上が 21 名（25.6%）、であった。職業は、会社員が 10 名（12.2%）、自営業が 13 名（15.9%）、専門職が 21 名（25.6%）、公務員が 2 名（2.4%）、主婦が 17 名（20.7%）、大学生が 7 名（8.5%）、パートが 1 名（1.2%）、無職が 10 名（12.2%）、その他が 1 名（1.2%）であった。ここでの専門職とは、建築、都市、まちづくり、デザインに関連する職業とした。

「協力者を連れてきてくれる」「活動を発信、情報を収集してくれる」という外交的な役割と、「アイデアを出してくれる」「知識や技術を提供してくれる」という思考的な役割が特に高い因子負荷量を示したことから、団体外とのつながりをつくり、思考性の高い役割を担っていることが分かる。これより「外交的・思考的役割」因子と命名した。

(2) 第 2 因子：「リーダー的役割」因子

第 2 因子の寄与率は 19.4% で、4 項目から構成されている。

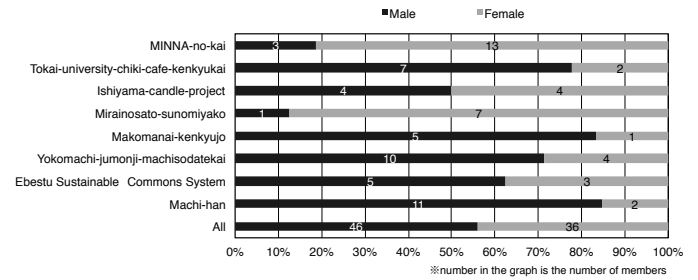


Fig. 1 Sex composition by groups

4. まちづくり団体の構成員の役割分担の構造

4.1 構成員の役割構造の構成因子

まちづくり団体の構成員の役割分担の構造を明らかにするために、すべての構成員^{注 8)}（106 名）が得た 12 項目それぞれの得票数 p を団体ごとの回答数 n で割った数値 p/n（最小値 0、最大値 1）に対して因子分析を行った。

まず、12 項目の相関行列の妥当性を確認するために、Kaiser-Meyer-Olkin（以下、KMO）の標本妥当性の測度^{注 9)}の検討と Bartlett 球面性検定^{注 10)}を行った。その結果、KMO は 0.81、球面性検定有意確率 $p < 0.01$ となり、因子分析の適用は妥当であると判断した。因子負荷量の推定には最尤法、軸の回転にはプロマックス回転を適用した。スクリープロット（fig.4）を作成し、固有値が 1 以上となる 3 つの因子を抽出した。Table4 に因子分析の推定結果を示す。なお、Table4 の網掛けは各因子のまとまりを表す。3 因子での累積寄与率は 64.8% で、高い値を示した。それぞれの因子の解釈は以下の通りである。

(1) 第 1 因子：「外交的・思考的役割」因子

第 1 因子の寄与率は 27.2% で、5 項目から構成されている。

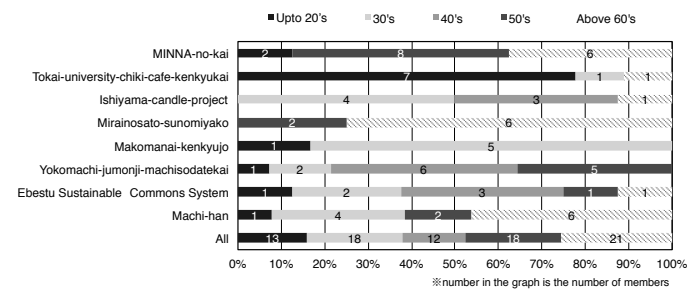


Fig. 2 Age composition by groups

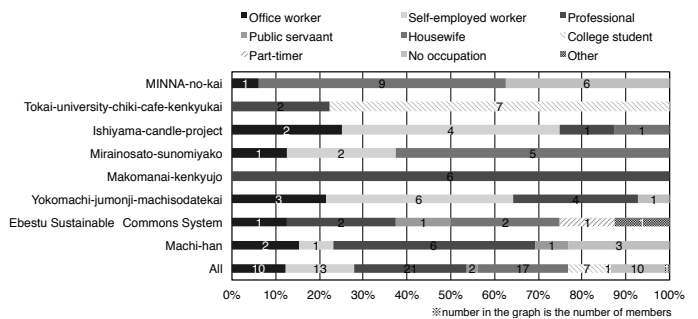


Fig. 3 Occupation composition by groups

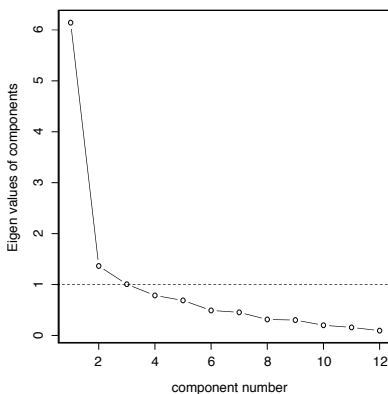


Fig. 4 Scree plot

Table4 Result of factor analysis

No.	Questionnaire items of roles	Factor 1	Factor 2	Factor 3
		Diplomatic and intellectual role	Leadership role	Behind the scenes role
12	members who bring their cooperators.	1.021	-0.129	-0.187
4	members who present ideas.	0.872	-0.202	0.102
6	members who provide and gather the information about activities.	0.808	0.003	0.034
8	members who provide their knowledge and skills.	0.518	-0.037	0.114
3	members who get a story straight and points out the problems.	0.412	0.225	0.123
1	members who demonstrate leadership.	-0.186	1.187	-0.095
11	members who independently propose plans.	0.478	0.574	-0.177
10	members who provide place and thing for activities.	0.222	0.514	-0.042
2	members who give me advice and help a lot.	0.141	0.424	0.251
5	members who are always cooperative with activities of groups.	-0.104	-0.155	1.109
7	members who adjust various things and do behind-the-scenes work.	0.114	0.078	0.634
9	members who brighten up the atmosphere.	-0.1	0.056	0.614
	SS loadings	3.26	2.326	2.19
	Proportion Var (%)	27.2	19.4	18.3
	Cumulative Var (%)	27.2	46.5	64.8

「リーダーシップを発揮している」「主体的に企画をしてくれる」「活動のための場やものを提供してくれる」の3項目が特に高い因子負荷量を示したことから、リーダーシップを発揮し主体的に企画をしたり、活動のための場やものを提供したりする役割を担っている。これより「リーダー的役割」因子と命名した。

(3) 第3因子：「裏方的役割」因子

第3因子の寄与率は18.3%で、3項目から構成されている。「いつも協力的である」「様々な調整や裏方仕事をしてくれる」「場の雰囲気を良くしてくれる」の3項目すべてが高い因子負荷量を示したことから、様々な調整やムードメイク等の裏方的な役割を担っていることが分かる。これより「裏方的役割」因子と命名した。

4.2 役割による構成員の類型化

まちづくり団体がどのような役割分担のもとで成立しているかを把握し、役割と参加動機の間を分析するために、因子分析から得られたすべての構成員の因子得点を標準化したものを用いてクラスター分析（ward法、平方ユークリッド距離）を行い、役割によって構成員を3つに類型化した（Fig.5）。それぞれの類型がどのような特性を持っているか明らかにするために、得られた類型別に構成員の各因子得点の平均値を算出し、折れ線グラフで示した（Fig.6）。また、より具体的な特徴を把握するために、類型ごとに構成員の役割調査項目のp/n（p：得票数、n：団体ごとの回答数）の平均値を求め、折れ線グラフ（Fig.7）を作成した。そして、各類型の構成員の「団体のまちへの貢献度」の平均点と「自身の団体への貢献度」の平均点を算出した。

類型1は15名（14.2%）で構成され、Fig.6を見ると、他の類型と比較してすべての因子が最も高く、特に「リーダー的役割」因子と「外交・思想的役割」因子が高い。Fig.7を見ると、「いつも協力的である」という項目以外すべて最も高い評価を得ており、特に「リ

ーダーシップを発揮している」、「主体的に企画をしてくれる」の2項目が突出している。リーダーシップとは、集団目標の達成に向けて個人や集団に影響を及ぼす過程である¹⁷⁾。つまり、この類型の構成員は団体が目指す目標を達成するために、主体的に企画をしながら他の構成員に影響を与え、あらゆる役割を率先的に担い活動を牽引していると推察される。これらの構成員を「万能リーダー型」とし、「団体の目指す目標達成に向けて主体的に企画を行い、自らが様々な役割を担うことで活動を牽引する構成員」と定義する。この類型の構成員の「団体のまちへの貢献度」の平均は55.0点で、「自身の団体への貢献度」は70.7点であった。

類型2は38名（35.8%）で構成され、Fig.6を見ると、「裏方的役割」因子が高く、それに対し「リーダー的役割」因子が低い。Fig.7を見ると、「いつも協力的である」の項目が最も高く、続いて「様々な調整や裏方仕事をしてくれる」と「場の雰囲気を良くしてくれる」の項目が高い。つまり、団体の活動にいつも協力的で、調整や裏方仕事、ムードメーカーを積極的に担うことで支援的な立場で活動に参加していると推察される。これらの構成員を「サポーター型」とし、「様々な調整や裏方仕事、ムードメーカーを担い、支援的な立場でいつも団体の活動に協力的な構成員」と定義する。この類型の構成員の「団体のまちへの貢献度」の平均は55.2点で、「自身の団体への貢献度」59.1点であった。

類型3は53名（50.0%）で構成され、Fig.6を見ると、すべての因子が負の方向に高い。Fig.7を見ると、団体の2割程度の構成員から、相談役、知識・技術の提供者、場の雰囲気を良くする役目を担っていると評価されていることが分かる。一方で、リーダーシップや主体的に企画をすることはほとんどないことが示されている。これらより、全構成員に対して大きな影響力を持つコアな役割ではなく、ある特定の場面（側面）において、あるいは断続的に、自身の資産・能力を生かして団体に協力している役割類型と推測される。

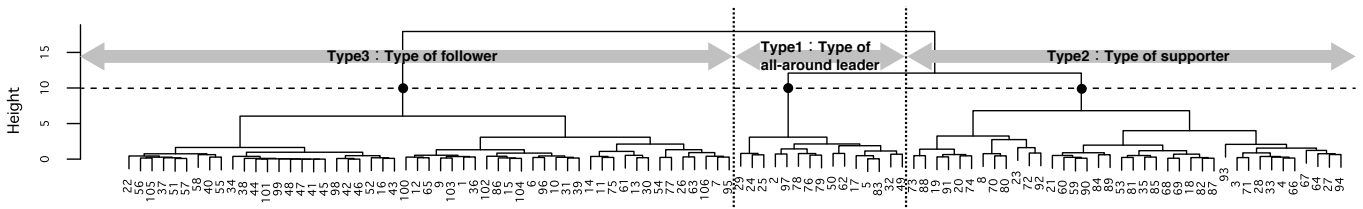


Fig.5 Cluster Dendrogram for 106 members in 8 groups

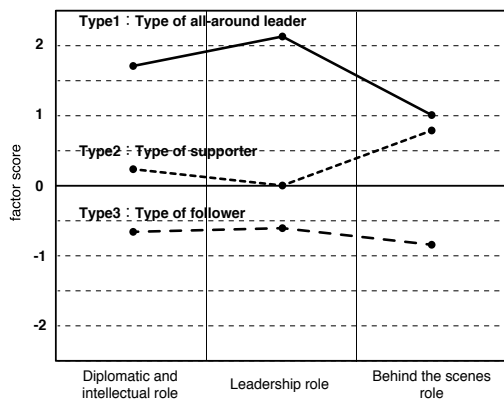


Fig.6 Averages of factor score of 3 role type of members

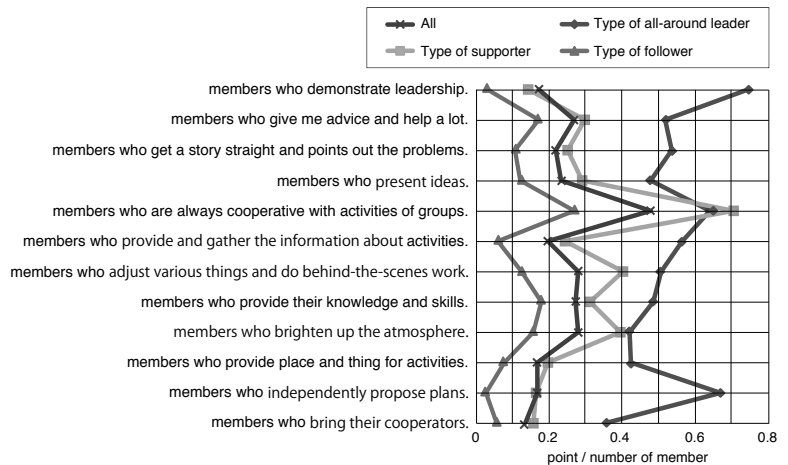


Fig.7 Score averages of questionnaire item by 3 role type of members

これらの構成員を「フォロワー型」とし、「他の構成員の考えに共感し、ある特定の場面（側面）で、あるいは断続的に、自身の資産・能力を生かして団体に協力する構成員」と定義する。このタイプの構成員の「団体のまちへの貢献度」の平均は 57.4 点で、「自身の団体への貢献度」31.7 点であった。

人数の割合は、「サポーター型」が全体の 5 割と最も多い。続いて「フォロワー型」が多く、「万能リーダー型」が最も少ない。「団体のまちへの貢献度」はどの類型もそれほど大差はないが、「自身の団体への貢献度」は「万能リーダー型」が最も高く、続いて「サポーター型」が高い。「フォロワー型」が最も低い結果となった。

4.3 団体別にみた構成員の役割類型の割合

団体別にみた構成員の役割類型の割合を明らかにするために、クロス集計表を作成し、 χ^2 検定と残差分析により、各団体と各類型との有意確率を求めた (Table5)。 χ^2 検定を行った結果、 $\chi^2=27.678$ 、 $Df=14$ 、 $p<0.05$ となり有意な傾向が見られた。また、残差分析の結果、有意差が見られる項目があったのは、「まこまなない研究所」、「横町十文字まち育て会」、「未来の里-寿の都」であった。「まこまなない研究所」では、「サポーター型」が $p<0.05$ で有意に多く、「フォロワー型」は少ない傾向があった。「横町十文字まち育て会」では、「フォロワー型」が $p<0.05$ で有意に多く、「サポーター型」が $p<0.05$ で有意に少なかった。「未来の里-寿の都」では、「サポーター型」が $p<0.01$ で有意に多く、「フォロワー型」が $p<0.05$ で有意に少なかった。「万能リーダー型」は、少ない団体で 1 名、多い団体で 4 名である。「サポーター型」は、少ない団体で 3 名、多い団体で 9 名である。「フォロワー型」は、少ない団体で 1 名、多い団体で 17 名である。

団体の規模（構成員の人数）による各役割類型の構成員の人数を比較するために、団体別に各役割類型の構成員の人数を表した積み上げ面グラフ (Fig.8) を作成した。団体は全構成員の人数の少ない順に左から並べている。これによると、団体の規模が大きくなるに連れて、「フォロワー型」の人数は多くなる傾向があるのに対し、「万能リーダー型」と「サポーター型」の人数はあまり変化しない。ただし、「未来の里-寿の都」は少し異なる傾向がある。

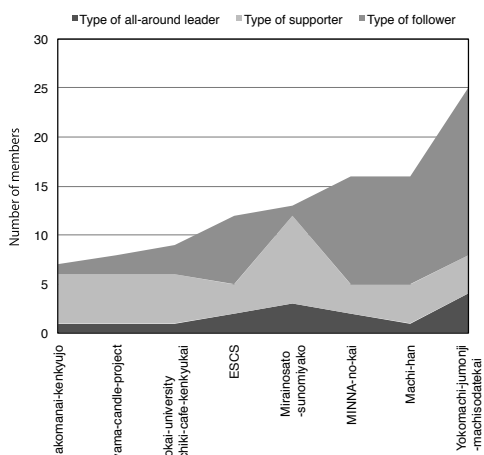


Fig.8 Stacked area chart of number of members of 3 role types by groups

各役割類型と属性（性別、年齢、職業）とのクロス集計表を作成し、 χ^2 検定を行ったが、特に有意差は見られなかった (Table5)。

5. まちづくり団体の構成員の役割と参加動機との関連性

5.1 構成員の参加動機類型

前稿で明らかにしたまちづくり団体の構成員の参加動機類型は以下の通りである。

(1) 「余暇活用型」

余暇を社会的評価の獲得や家族のために活用したいという思いが主な参加動機となっている構成員である。

(2) 「承認欲求型」

まちや団体に対する報恩意識と他者から必要とされたいという承認欲求が主な活動参加への動機となっている構成員である。

(3) 「自己実現型」

自身の専門性を生かしてまちを良くしたい、自己成長につなげたい、他の構成員と一緒に活動することや活動自体を楽しみたいという内発的な動機を持った構成員である。

5.2 まちづくり団体の構成員の役割と参加動機との関連の検討

まちづくり団体の構成員の役割と参加動機との関連を検討するために、役割類型と参加動機類型のクロス集計表を作成し、 χ^2 検定と残差分析により、役割類型と参加動機類型との有意確率を求めた (Table6)。 χ^2 検定を行った結果、 $\chi^2=11.866$ 、 $Df=4$ 、 $p<0.05$ となり有意な傾向が見られた。また、残差分析の結果、「万能リーダー型」は「承認欲求型」が $p<0.05$ で有意に多く、「余暇活用型」が $p<0.05$ で有意に少なかった。「サポーター型」は「自己実現型」が $p<0.05$ で有意に多く、「承認欲求型」が $p<0.05$ で有意に少なかった。「フォロワー型」は有意差が見られなかったが、「自己実現型」に少ない傾向が見られた。

5.3 団体の活動タイプによる構成員の役割への影響

団体の活動タイプが役割に与える影響を分析するために、各活動タイプと各役割類型のクロス集計表を作成し、 χ^2 検定と残差分析に

Table5 Cross-tabulation table of role type and attribution of members

		Type of all-around leader			Type of supporter			Type of follower		
		n	%	p-value	n	%	p-value	n	%	p-value
Group	MINNA-no-kai	2	2.4%		3	3.7%		11	13.4%	
	Makomanai-kenkyuzuyo	1	1.2%		5	6.1%	*	1	1.2%	+
	Yokomachi-zyumonji-machisodatekai	4	4.9%		4	4.9%	*	17	20.7%	*
	ESCS	2	2.4%		3	3.7%		7	8.5%	
	Tokai-university-chiki-cafe-kenkyukai	1	1.2%		5	6.1%		3	3.7%	
	Ishiyama-candle-project	1	1.2%		5	6.1%		2	2.4%	
	Machi-han	1	1.2%		4	4.9%		11	13.4%	
	Mirinosato-sunomyako	3	3.7%		9	11.0%	**	1	1.2%	**
Sex	Male	5	6.1%		15	18.3%		16	19.5%	
	Female	9	11.0%		17	20.7%		20	24.4%	
Age	Upto 20' s	0	0.0%		7	8.5%		6	7.3%	
	30' s	6	7.3%		7	8.5%		5	6.1%	
	40' s	1	1.2%		4	4.9%		7	8.5%	
	50' s	3	3.7%		5	6.1%		10	12.2%	
	Above 60' s	4	4.9%		9	11.0%		8	9.8%	
	Occupation	Office worker	0	0.0%		1	1.2%		0	0.0%
Self-employed worker		1	1.2%		4	4.9%		5	6.1%	
Professional		0	0.0%		1	1.2%		1	1.2%	
Public servant		2	2.4%		6	7.3%		5	6.1%	
Housewife		3	3.7%		8	9.8%		6	7.3%	
College student		5	6.1%		6	7.3%		10	12.2%	
Part-timer		0	0.0%		5	6.1%		2	2.4%	
No occupation		2	2.4%		1	1.2%		7	8.5%	
Other		1	1.2%		0	0.0%		0	0.0%	
Total		14	17.1%		32	39.0%		36	43.9%	

+p<0.10 *p<0.05 **p<0.01

より、活動タイプと役割類型との有意確率を求めた (Table7)。χ² 検定を行った結果、x²=6.082、Df=2、p<0.05 となり有意な傾向が見られた。また、残差分析の結果、「プレーヤー型」では「サポーター型」が p<0.05 で有意に多く、「フォロワー型」が p<0.05 で有意に少なかった。一方、「エリアマネージャー型」では「フォロワー型」が p<0.05 で有意に多く、「サポーター型」が p<0.05 で有意に少なかった。

次に、まちづくり団体の活動タイプが構成員の役割と参加動機の関係に与える影響を検討するために、各活動タイプ別に役割類型と参加動機類型のクロス集計表を作成し、χ² 検定と残差分析により、役割類型と参加動機類型との有意確率を求めた (Table8)。χ² 検定を行った結果、「プレーヤー型」については x²= 11.430、Df=4、p<0.05 となり有意な傾向が見られたが、「エリアマネージャー型」については有意な傾向が見られなかった。有意な傾向が見られた「プレーヤー型」について残差分析を行った結果、「万能リーダー型」は「承認欲求型」が p<0.01 で有意に多く、「余暇活用品型」が p<0.05 で有意に少なかった。「サポーター型」は「自己実現型」が p<0.05 で有意に少なかった。「フォロワー型」は有意差が見られなかったが、「余暇活用品型」に多く、「自己実現型」に少ない傾向が見られた。

さらに、団体の活動タイプが構成員の役割と参加動機の関係にどのように影響を与えているか検討するために、Table6,8 の内容を棒グラフ (Fig.9,10,11) で表した。「プレーヤー型」の影響を検討するために全体 (Fig.9) と「プレーヤー型」 (Fig.10) を比較すると、「万能リーダー型」では「承認欲求型」が、「サポーター型」では「余暇活用品型」と「承認欲求型」が、「フォロワー型」で「余暇活用品型」がそれぞれ多くなっている。また、「エリアマネージャー型」の影響を検討するために全体 (Fig.9) と「エリアマネージャー型」 (Fig.11) を比較すると、すべての役割類型において「自己実現型」が多くなっている。

6. 考察

3つの役割類型について、参加動機類型と合わせて考察する。

(1) 「万能リーダー型」

このタイプの構成員は、他の類型と比較してすべての因子の因子得点が最も高く、特に「リーダー的役割」と「外交・思考的役割」の因子得点が高い。「自身の団体への貢献度」の平均点も70.7点と他の類型と比較して最も高い。このことから、リーダーシップを発揮し、他のあらゆる役割を担いながら団体を運営する役割を担っており、特にリーダーシップ以外にも、対外的に団体の顔となって情報発信・収集をしたり、協力者を連れてきたりし、また団体内では思考的な役割を担ったりしている最も団体への貢献度が高い構成員の類型であることが分かる。このようにリーダーがあらゆる役割を担っているという点は、通常システムチックに分業化された企業や行政等の組織とは異なる特徴であり、負担が大きいと考えられる。また、このタイプの構成員は各団体に1~4名所属しており、他の類型と比べて最も

Table6 Cross-tabulation table of role type and participation motivation of members

Participation motivation type	Type of all-around leader			Type of supporter			Type of follower		
	n	%	p-value	n	%	p-value	n	%	p-value
Type of using spare time	1	1.2 %	*	11	13.4 %		15	18.3 %	
Type of desire for recognition from others	9	11.0 %	*	7	8.5 %	*	14	17.1 %	
Type of self-actualization needs	4	4.9 %		14	17.1 %	*	7	8.5 %	+
Total	14	17.1 %		32	39.0 %		36	43.9 %	

+p<0.10 *p<0.05 **p<0.01

Table7 Cross-tabulation of role type of members and action type of groups

Action type	Type of all-around leader			Type of supporter			Type of follower		
	n	%	p-value	n	%	p-value	n	%	p-value
Action type of player	7	6.6 %		22	20.8 %	*	17	16.0 %	*
Action type of area manager	8	7.5 %		16	15.1 %	*	36	34.0 %	*
Total	15	14.2 %		38	35.8 %		53	50.0 %	

+p<0.10 *p<0.05 **p<0.01

Table8 Cross-tabulation of role type and participation motivation of members by action type

Action type	Participation motivation type	Type of all-around leader			Type of supporter			Type of follower		
		n	%	p-value	n	%	p-value	n	%	p-value
Action type of player	Type of using spare time	0	0.0 %	*	7	17.1 %		9	22.0 %	+
	Type of desire for recognition from others	6	14.6 %	**	5	12.2 %		6	14.6 %	
	Type of self-actualization needs	1	2.4 %		6	14.6 %	*	1	2.4 %	+
	Total	7	17.1 %		18	43.9 %		16	39.0 %	
Action type of area manager	Type of using spare time	1	2.4 %		4	9.8 %		5	12.2 %	
	Type of desire for recognition from others	3	7.3 %		2	4.9 %		8	19.5 %	
	Type of self-actualization needs	3	7.3 %		8	19.5 %		6	14.6 %	
	Total	7	17.1 %		14	34.1 %		19	46.3 %	

+p<0.10 *p<0.05 **p<0.01

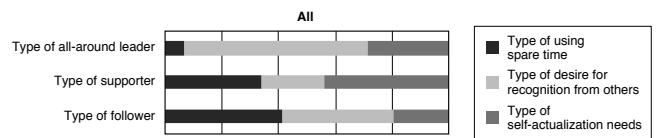


Fig.9 Relationship between role type and participation motivation of all members

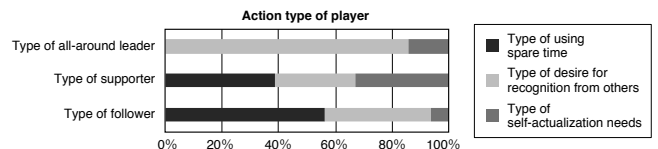


Fig.10 Relationship between role type and participation motivation of members in action type of player

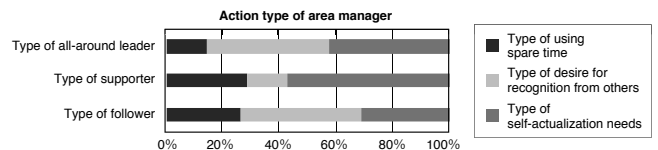


Fig.11 Relationship between role type and participation motivation of members in action type of area manager

少数である。このことから、まちづくり団体では少人数のリーダーが自ら率先し、様々な役割を担うことで団体運営を行っていることが推察できる。

参加動機については、この類型は「承認欲求型」が多く、「余暇活用品型」が少ない。自身が生まれ育ったまにに恩返しをしたいという報恩意識によって自ら立ち上がり主体的に活動を推進するリーダーとなったり、他者から認められたいという承認欲求が最も評価を受ける立場であるリーダーとなったりすると考えられる。負担が大きいかにも関わらずあらゆる役割を率先して担っているのは、そのような強い動機が支えていると推察でき

る。一方、余暇を社会的評価の獲得や家族のために活用したいという動機の構成員にとっては、リーダー的役割は負担が大きいため担う可能性が低いと推察される。

(2) 「サポーター型」

このタイプの構成員は、「裏方的役割」の因子得点が高く、それに対し「リーダー的役割」の因子得点が低い。「自身の団体への貢献度」の平均点は59.1点と2番目に高い。このことから、主体的に企画をしたりリーダーシップを発揮したりするのではなく、様々な調整や裏方仕事をしたり、ムードメーカーになったりする等、支援的な立場でいつも協力的に活動に関わる構成員の類型であることが分かる。調整や裏方仕事をやる役割は、あらゆる組織で必要になってくることが推測されるが、その役割と場の雰囲気をよくする役割を同じ構成員が担っているところに特徴があると考えられる。このタイプの構成員は各団体に3~9名所属しており、リーダー的役割に比べて人数は多い。このことから、まちづくり団体には複数名の裏方調整やムードメイクをする構成員が存在し、リーダーを支援することによって団体の運営に関わっていると推察される。

参加動機については、このタイプは「自己実現型」が多く、「承認欲求型」が少ない。つまり、自身が他者から評価されることよりも、自分の住むまちを良くしたい、自己成長したい、活動自体を楽しみたいという内発的な動機によって活動に参加している。そうした動機を満たすためには、必ずしもリーダー的な役割である必要はなく、支援的な立場で活動自体を良くしていく、楽しくしていくということが重要となり、そのことが裏方調整とムードメーカーの両方の役割を担っていることにつながっていると考えられる。

(3) 「フォロワー型」

このタイプの構成員は、すべての因子の因子得点が負の方向に高いが、一部の構成員から、相談役、知識・技術の提供者、場の雰囲気を良くする役目を担っていると評価されている。「自身の団体への貢献度」の平均点は、31.7点と他の類型と比較して最も低い。このことから、ある特定の場面（側面）において、あるいは断続的に、自身の資産・能力を生かして団体に協力している役割類型であることが分かる。つまり、団体への関与は部分的で、比較的自由度の高い活動への参加の仕方をしていられる。このような自由度の高い参加が許容されるのも主体的活動であるまちづくり団体の特徴であり、こうした役割は専門性が需要で、資金や人材が不足しやすいまちづくり団体の活動を支える重要な役割を果たしていると考えられる。ただし、中には参加に消極的な構成員が含まれている可能性もあると考えられる。また、このタイプの構成員は各団体に1~17名所属しており、団体によって人数がばらばらで他の類型と比べて人数の幅が広い。団体の規模が大きくなるに連れてこのタイプの構成員の人数も増えることから、団体の規模が大きくなるに従ってこうした部分的に協力する構成員が多くなると考えられる。

参加動機については、このタイプは「自己実現型」が少ない傾向がある。また、最も多かったのが「余暇活用品」である。他の類型と比較すると参加動機との関連性は低い結果であるが、余暇を社会的評価の獲得や家族のために活用したいという思い

が参加動機となっている構成員が多く、活動に参加していること自体や自身の資産や能力を活動に役立てることに意義を見出していると考えられる。また、「承認欲求型」の構成員も一定数見られるが、「万能リーダー型」と「承認欲求型」の関連を踏まえると、この場合の役割は参加動機ではない何か別の要因によって規定されていると考えられる。

以上より、まちづくり団体に所属する多くの構成員の担う役割と参加動機の関係性を統計的手法を用いて明らかにした。特に「承認欲求型」の構成員は「万能リーダー型」、「自己実現型」の構成員は「サポーター型」となる傾向がある。これらの結果の妥当性については、各役割類型ごとに考察した通りである。ただし、リーダーのような役割が誰でも担うことができるわけではないため、それぞれの能力も関連していると考えられる。また、少人数の「万能リーダー型」の構成員があらゆる役割を担って活動を牽引し、「サポーター型」の構成員がそれをサポートしている。これらが核となってまちづくり団体を成立させ、それに「フォロワー型」の構成員が追従している。

団体の規模に着目すると、「万能リーダー型」と「サポーター型」は団体の規模が大きくなってあまり人数の変化が見られないが、「フォロワー型」は団体の規模が大きくなるに連れて人数が多くなる傾向があった。団体への貢献度が比較的高い「万能リーダー型」と「サポーター型」は、団体の規模に関わらず必要とされる人数がある一定数であり、一方で「フォロワー型」はある特定の場面（側面）、あるいは断続的に団体に貢献する比較的自由度の高い構成員であるため、団体によって人数の差が生じやすいと推察される。

団体の活動タイプに着目すると、「プレーヤー型」には「サポーター型」が多く「フォロワー型」が少ない傾向が見られたのに対し、「エリアマネージャー型」には「フォロワー型」が多く「サポーター型」が少ない傾向が見られ、活動タイプによって団体の役割タイプの構成が異なることが明らかになった。「プレーヤー型」は自らがプレーヤーとなって活動する団体であり実動する人数が多く必要であるため、いつも協力的な「サポーター型」が多いのに対し、「エリアマネージャー型」は専門的知識が必要であるため、自身の資産・能力を生かして団体に協力する「フォロワー型」の人数が多いと推察される。また、活動タイプが構成員の役割と参加動機の関係に与える影響を検討した結果、「プレーヤー型」については、「万能リーダー型」は「承認欲求型」が、「サポーター型」は「余暇活用品」と「承認欲求型」が、「フォロワー型」は「余暇活用品」がそれぞれ多くなっている。一方、「エリアマネージャー型」ではすべての役割類型において「自己実現型」が多くなっている。前稿で、「プレーヤー型」の団体には「承認欲求型」が多く、「エリアマネージャー型」の団体には「自己実現型」が多いという結果が得られており、これが＜構成員の役割＞と＜参加動機＞の関係に影響を与えていると推察される。すなわち、構成員の参加動機は団体の活動タイプと構成員の役割の双方に影響し、活動タイプが構成員の役割と参加動機の影響を複雑化させていると考えられる。また、「プレーヤー型」において、「万能リーダー型」と「サポーター型」に「承認欲求型」が多くなっており、活動タイプの影響を強く受けていることから、参加動機にあった活動タイプを選択している構成員がより中心的な役割を担う可能性があると考えられる。ただし、すべての構成員の参加動機

は活動内容と役割の2つの要素だけでは説明できず、様々な要因によって満たされていると推測されることから、参加動機の役割への影響の仕方は事例によって異なると考えられる。

7. まとめ

本研究では、まちづくり団体の構成員の役割と参加動機との関連性を検討した。その結果、以下のことが明らかになった。

(1) まちづくり団体の構成員の役割分担の構造

12の役割調査項目を用いて8のまちづくり団体に所属する構成員を対象に調査を行った。その結果、まちづくり団体の役割構造は、①「外交的・思想的役割」因子、②「リーダー的役割」因子、③「裏方的役割」因子の3因子によって構成されていることを明らかにした。

(2) 役割による構成員の類型化とその特徴

構成員の担う役割によって、①「万能リーダー型」、②「サポーター型」、③「フォロワー型」の3つに類型化した。①「万能リーダー型」は、団体の目指す目標達成に向けて新たな企画や体制づくりを行い、主体的に自らが様々な役割を担うことで活動を牽引する構成員である。②「サポーター型」は、様々な調整や裏方仕事、ムードメーカーを担い、支援的な立場でいつも団体の活動に協力的な構成員である。③「フォロワー型」は、他の構成員に追従するかたちで、ある特定の場面（側面）で、あるいは断続的に、自身の資産・能力を生かして団体に協力する構成員である。団体の規模が大きくなるに連れて、「フォロワー型」の人数は多くなる傾向があるのに対し、「万能リーダー型」と「サポーター型」の人数はあまり変化しない。

(3) 構成員の担う役割と参加動機との関連性

まちづくり団体に所属する多くの構成員が参加動機によって担う役割が規定されていることを明らかにした。具体的には、「万能リーダー型」は「承認欲求型」に多く、「余暇活用型」に少ない。「サポーター型」は「自己実現型」が多く、「承認欲求型」が少ない。「フォロワー型」は「自己実現型」が少ない傾向がある。ただし、リーダーのような役割が誰でも担うことができるわけではないため、それぞれの能力も関連していると考えられる。

(4) 団体の活動タイプによる構成員の役割への影響

「プレーヤー型」には「サポーター型」が多く「フォロワー型」が少ない傾向が見られたのに対し、「エアリアマネージャー型」には「フォロワー型」が多く「サポーター型」が少ない傾向が見られ、団体の活動タイプによって役割タイプの構成が異なることを明らかにした。また、構成員の参加動機は団体の活動タイプと構成員の役割の両方に影響し、活動タイプが構成員の役割と参加動機の間を複雑化させていると考えられる。

以上のように、まちづくり団体ではどのような役割分担がされているのか把握し、各役割と参加動機の関連性を明らかにしたことにより、専門家が各構成員の参加動機を考慮したまちづくり団体の支援を行う際の有用な知見を得られた。さらには、活動タイプによる役割への影響を明らかにしたことにより、活動タイプを考慮した支援も可能となる。また、今後まちづくり団体の組織マネジメントの方法論を検討する上でも意義がある。

今回の調査では活動期間が10年未満で構成員数が最大30名程度の団体を対象としている。対象団体の選定においては無作為抽出を行っておらず、また該当サンプル数が少ないという点で、一般化するには課題がある。しかしながら、本研究は機縁法を用いて高い有効回答率を得ることによって、対象とした構成員全体の役割を明らかにし、それにより参加動機と役割とのある一定の関連性を明らかにできたことに意義がある。今後は今回の分析結果を用いてより簡便な調査手法を開発し、調査範囲の拡大や調査対象数を増やすことによって、今回得られた結果の検証を行う予定である。また、今回は質的なことを統計的手法を用いて傾向を明らかにしたが、今後はその妥当性を質的研究手法において示す必要もあると考えられる。さらに、今回の調査では現在担っている役割が活動に参加し始めたときから担っているものなのか、他の構成員との関係性の中で調整された結果なのかは明らかにしていない。今後は役割の変化についても分析する必要がある。

謝辞

本研究の調査にあたり、まちづくり団体をご紹介下さいました専門家のみなさまと各まちづくり団体の構成員のみなさまには、多大なご協力を頂きました。ここに記して、感謝の意を表します。

注

- 注1) 山田は、論文『団地の高齢化に伴うコミュニティ形成事業の成果と課題—広島市中区基町高層団地における「立寄り所」開設を事例として—』(比治山大学現代文化学部紀要 Vol.18, pp/135-146, 2011)において、コミュニティを自治会・町内会・老人会といった組織のような同じ生活圏域に居住する住民間で構成される「地縁型コミュニティ」と、NPO法人のような個別課題に高い問題意識をもって地理的境界に捉われず、専門的に対応できる組織である「テーマ型コミュニティ」の2つに整理している。
- 注2) 本論ではまちづくりを、「ある一定の圏域において、生活に関わる様々な地域課題の解決のために住民自らが主体的・継続的に取り組む活動」と定義する。
- 注3) 山崎は参考文献3)で、まちづくりコミュニティ(本論におけるまちづくり団体)を①特定のテーマを掲げて活動する集団であり、②同じ地域に居住している構成員から成り、③非営利の活動を主とし、④まちづくりに貢献する活動を行っているテーマ型コミュニティと定義している。
- 注4) 前稿で、まちづくり団体の活動内容を、①まちに新しい社会活動を生み出すために、団体が自らプレーヤーとなる「プレーヤー型」と、②まちに変化をもたらすために、プレーヤーが活動するための場・仕組み・機会をつくる「エアリアマネージャー型」の2つの活動タイプに分類した。
- 注5) 参考文献10)では、10の役割項目を用いて役割調査を実施した。また、参考文献11)では、参考文献10)の結果を調査対象者にフィードバックすることで、新たに2項目の不足項目を明らかにした。本研究における役割項目はこれらの研究を参照しており、類似の調査を実施することはバイアスが生じる可能性があるため、本調査対象から除外した。
- 注6) 役割は団体内において自然発生的に表出する構成員の行動様式であり、見えづらい役割や特定の構成員からのみ認識されている役割も存在すると推測される。ある特定の個人による評価や自己評価では主観性によって偏りが生じる可能性があるため、すべての構成員による相互評価によって客観的に評価する必要があると考えられる。その際に団体の規模が大きいと構成員同士がお互いを認識していない可能性があり適切なデータを得られないと考えられる。
- 注7) 年代に考慮して抽出した結果、5つの年代区分(20代以下、30代、40代、50代、60代以上)すべてにおいて、20%±6%の割合となった。また職業については、同職種で構成された団体(3種類以下の職業の構成員から構成されている団体)と多職種で構成された団体(4種類以上の職業の構成員から構成されている団体)によって役割への影響が異なる可能性があると考えられるが、それぞれと4団体ずつバランス良く抽出された。
- 注8) 回答者は82名であり、すべての構成員は106名である。今回、役割調

査に関してはすべての構成員に対する相互投票方式で実施しているため、役割調査の結果は106名分得られる。一方、属性等を把握するためのアンケート調査の結果は回答した82名分となる。

注9) KMOの標本妥当性の測度は、観測相関係数の大きさと偏相関係数の大きさを比較する指標で、標本の適切性を判断する。一般的に0.5以下は不十分であり、数値が高いほど良い結果である。

注10) Bartlett球面性検定では、変数間に相関があるかどうかを検定し、因子分析を行う適合性があるかを判断する。有意であれば変数間に相関があり、因子分析を行うには妥当であるといえる。

参考文献

- 1) Yamazaki, R. : Generation of Community Design: Make "Machi" for Ourselves, Chukoshinsho, 2012 (in Japanese)
山崎亮: コミュニティデザインの時代 自分たちで「まち」をつくる, 中公新書, 2012
- 2) Yabutani, Y., Nakahara, H. : Relationship Between Participation Motivation of Member in Community Action Group and Action Type of the Group : Comparison between "action type of player" and "action type of area manager", Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ) , Vol. 82, No. 740, pp.2661-2671, 2017.10 (in Japanese)
藪谷祐介, 中原宏: まちづくり市民活動団体への参加動機と活動タイプとの関連性-「プレーヤー型」と「エリアマネージャー型」に分類して-, 日本建築学会計画系論文集, 第82巻, 第740号, pp.2661-2671, 2017.10
- 3) Yamazaki, R. : Studies about Method of Nucleus Formulation of Activities in Participatory Community Design in Hilly and Mountainous Areas: Case Study of Formulation Process of Community Action Group, Doctoral Dissertations in Tokyo University, 2012 (in Japanese)
山崎亮: 中山間離島地域の住民参加型まちづくりにおける活動主体の形成手法に関する研究 まちづくりコミュニティの形成プロセスを例に, 東京大学学位論文, 2012
- 4) Tao, M., Yoshida, T : Introduction to Non-profit Organization, Yuhikaku Publishing Co., Ltd., 2009 (in Japanese)
田尾雅夫, 吉田忠彦: 非営利組織論, 有斐閣, 2009
- 5) Kuwada, K., Tao, M. : Organization Theory expanded edition, Yuhikaku Publishing Co., Ltd., 2010 (in Japanese)
桑田耕太郎, 田尾雅夫: 組織論 補訂版, 有斐閣, 2010
- 6) Uchida, A., Iwata, T., Deguchi, A. : Evaluation and Sustaining Factors of Machidukuri Groups Organized in Relation with the "HOPE PLAN", Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ) , Vol. 71, No. 608, pp.97-102, 2006.10 (in Japanese)
内田晃, 岩田司, 出口敦: HOPE計画策定を契機として組織されたまちづくり活動組織の継続性と評価, 日本建築学会計画系論文集, 第71巻, 第608号 pp.97-102, 2006.10
- 7) Takahashi, M., Kubo, K. and Shiraki, R. : Study on Activity Actual Situation and Continuity of the Community Development Group in The Wide Area Business, Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ) , Vol. 73, No. 629, pp.1537-1545, 2008.7 (in Japanese)
高橋美寛, 久保勝裕, 白木里恵子: 広域事業における地域づくり団体の活動実態とその継続性に関する研究: 北海道の旧産炭地でのまちづくりを事例として, 日本建築学会計画系論文集, 第73巻, 第629号, pp.1537-1545, 2008.7
- 8) Taguchi, T., Goto, H. : A Study on Process of Community Development Actors Being Independent and the Roles of Municipal Thinktank : Case study at policy research institute of Odawara, Kanagawa-prefecture, Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ) , Vol. 70, No.587, pp.135-141, 2005.1 (in Japanese)
田口太郎, 後藤春彦: まちづくり活動主体の自立プロセスと自治体シンクタンクの役割に関する研究: 神奈川県小田原市政策総合研究所を事例に, 日本建築学会計画系論文集, 第70巻, 第587号, pp.135-141, 2005.1
- 9) Asato, N., Ikeda, T. : Study on the Grasp of the Actual Condition about Public Support for Community Landscape Design Activities : The case study on Urasoe city of Okinawa prefecture, Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ) , Vol. 68, No.566, pp.89-95, 2003.4 (in Japanese)
安里直美, 池田孝之: 身近な環境づくりにおける住民主体の活動と支援に関する実態と課題: 沖縄県浦添市まちづくりプラン賞を事例にして, 日本建築学会計画系論文集, 第68巻, 第566号, pp.89-95, 2003.4
- 10) Nakahara, H., Yabutani, Y. and Saito, M. : Structural Analysis on the Community Action Groups Part 1 : The Case Studies of Daigomachi-yatai-kenkyukkai, Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, Urban Planning, pp.637-638, 2016.8 (in Japanese)
中原宏, 藪谷祐介, 齊藤雅也: まちづくりコミュニティの構造分析その1-大子町屋台研究会をケーススタディとして, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 都市計画, pp.637-638, 2016.8
- 11) Yabutani, Y., Nakahara, H. and Saito, M. : Structural Analysis on the Community Action Groups Part 2 : Verification of Survey Methods by Comparison of two Communities and Feedback to Survey Respondents, Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, Urban Planning, pp.639-640, 2016.8 (in Japanese)
藪谷祐介, 中原宏, 齊藤雅也: まちづくりコミュニティの構造分析その2-2つのコミュニティ比較と調査対象者へのフィードバックによる検証, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 都市計画, pp.639-640, 2016.8
- 12) Taguchi, M. and Sone, Y. : The Role of Group Activities and Key Persons in a Community: Research on the Neighborhood Communication in the Mini-housing Development in the 1960s (part 3), Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ) , Vol. 75, No.648, pp.343-351, 2009.4 (in Japanese)
田口慎子, 曽根陽子: コミュニティ形成に果たすグループ活動とキーパーソンの役割 -1960年代のミニ開発住宅地における近隣交流に関する研究その3-, 日本建築学会計画系論文集, 第75巻, 第648号, pp.343-351, 2009.4
- 13) Hino, K., Shiraiishi, Y., Hoshi, T., Ikaga, T. : Factors of Children's Participation in Community Activities and structural Relationship to Their Health : Focusing on parents' attitude and participation and community safety, Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ) , Vol. 77, No.679, pp.2119-2125, 2012.9 (in Japanese)
樋野公宏, 白石靖幸, 星旦二, 伊香賀俊治: 子どもの地域活動の参加要因と健康関連要因の構造分析: 保護者の意識・行動および地域の安全環境に着目して, 日本建築学会計画系論文集, 第77巻, 第679号, pp.2119-2125, 2012.9
- 14) Taniguchi, M., Yamaguchi, H., Miyaki, M. : Current status and the participation factors for inter-regional civic assistance : A case study of the Great East Japan Earthquake, Journal of the City Planning Institute of Japan, Vol.47, No.3, pp.457-462, 2012.10 (in Japanese)
谷口守, 山口裕敏, 宮木祐任: 他地域に対する市民レベルの援助実態とその参加要因に関する研究東日本大震災をケーススタディーとして, 日本都市計画学会学術研究論文集, Vol.47, No.3, pp.457-462, 2012.10
- 15) TEG Study Group, Department of Psychosomatic Medicine, Faculty of Medicine, The University of Tokyo : Tokyo University Egogram New Ver. II, Kanekoshobo, 2006 (in Japanese)
東京大学医学部心療内科 TEG研究会, 新版 TEG II, 金子書房, 2006
- 16) Kurahara, M. : Study on the community protect by residents for town management and community making-Through the Kitano Yatai project in Obihiro city, AIJ Journal of Technology and Design, Vol.16, No.401, pp.303-308, 2002.12 (in Japanese)
倉原宗孝: まちなか活性化・まちづくりに向けた市民主体による事業への取り組みに関する考察-帯広市「北の屋台」を通じて-, 日本建築学会技術報告集, 第16号, pp.303-308, 2002.12
- 17) Hori, H., Yoshida, F., Matsui, Y., Miyamoto, S. : Social psychology Revised edition, Fukumura Publishing, 2009 (in Japanese)
堀洋道, 吉田富二雄, 松井豊, 宮本聡介: 新編 社会心理学 改訂版, 福村出版, 2009

RELATIONSHIP BETWEEN ROLE AND PARTICIPATION MOTIVATION OF MEMBER IN COMMUNITY ACTION GROUP

Yusuke YABUTANI^{*1}, *Hiroshi NAKAHARA*^{*2} and *Akio SHIINO*^{*3}

^{*1} Senior Assist. Prof., Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama, M.Design

^{*2} Emeritus Prof., School of Design, Sapporo City Univ., Dr.Eng.

^{*3} Assoc. Prof., School of Design, Sapporo City Univ., Dr.Eng.

Community action groups are expected as new groups to support the life of the community instead of territorial groups. In recent years, “Community design” that the expert support to forming community action groups to solve regional problems is getting a lot of attention.

In our preceding paper, we classified members in community action groups into 3 types of participation motivation: “type of using spare time”, “type of desire for recognition from others” and “type of self-actualization needs”. The aim of this study is to clarify the relationship between the roles of members and the motivations to participate community action groups.

First, We prepared 12-items of roles of members in community action groups (Table2) . We performed the questionnaire survey by the mutual vote method by using the 12-items targeting 106 members in 8 groups. By factor analysis using answers to the questionnaire, it was clarified that the construction of roles of members in community action groups was composed of 3 factors: “Diplomatic and intellectual role” factor, “Leadership role” factor and “Behind the scenes role” factor. (Table4)

Second, The role types of members in 8 groups were classified by cluster analysis as follows: “type of all-around leader”, “type of supporter” and “type of follower”(Fig.5). The members of “type of all-around leader” showed strong leadership and play a lot of roles in the groups, especially to provide and gather the information, to bring their cooperators and to consider about their activities. The members of “type of supporter” were situation to support and always cooperative with activities of groups. The members of “type of follower” played the leading role in comparison to the other types.

Third, we investigated the relationship between the roles of members and the motivations to participate community action groups. The result was that there were tendencies to be a lot of members of “type of desire for recognition from others” and a few members of “type of using spare time” in members of “type of all-around leader”, and a lot of members of “type of self-actualization needs” and a few members of “type of desire for recognition from others” in members of “type of supporter”. On the other hand, there were tendencies to be a few members of “type of self-actualization needs”. (Table6)

Finally, we investigated how did the action type of groups have an effect on the roles of members. The result was that there were tendencies to be a lot of members of “type of supporter” and a few members of “type of follower” in “action type of player”. On the other hand, there were tendencies to be a lot of members of “type of follower” and a few members of “type of supporter” in “action type of area manager” (Table7). And the participation motivation of members had an effect on both of the action type of groups and the roles of members, in other words, the action type of groups made complex the relationship between the roles of members and the motivations to participate community action groups (Fig9,10,11).

(2018年7月5日原稿受理, 2019年4月10日採用決定)